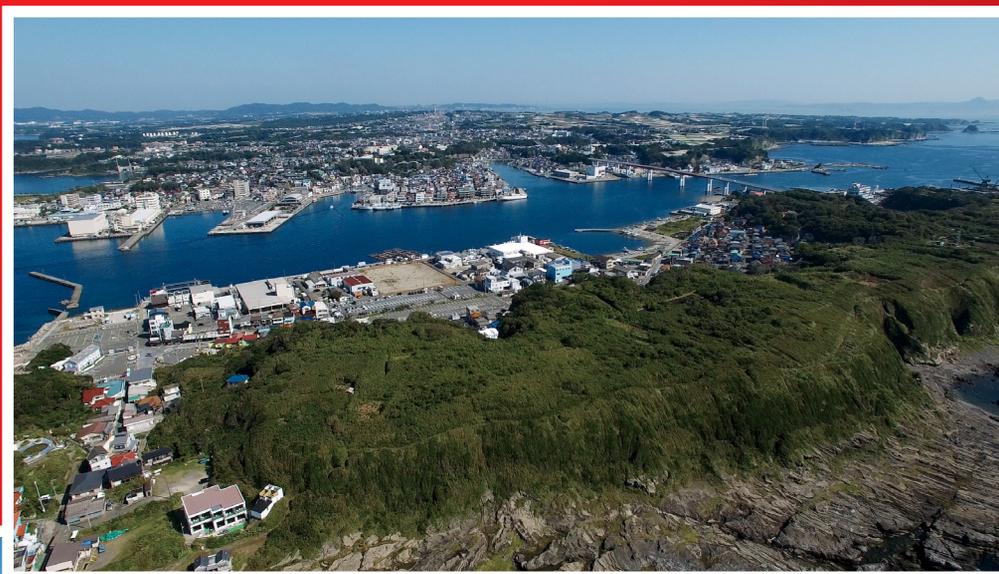


# 三浦市 防災 ハザードマップ

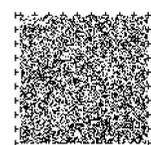
保存版



2024年度版

 三浦市

このマークは目の不自由な方のための「音声コード」です。専用のスマートフォンアプリ (Uni-Voice) でハザード情報 (土砂災害) を音声でご案内します。



Uni-Voice 

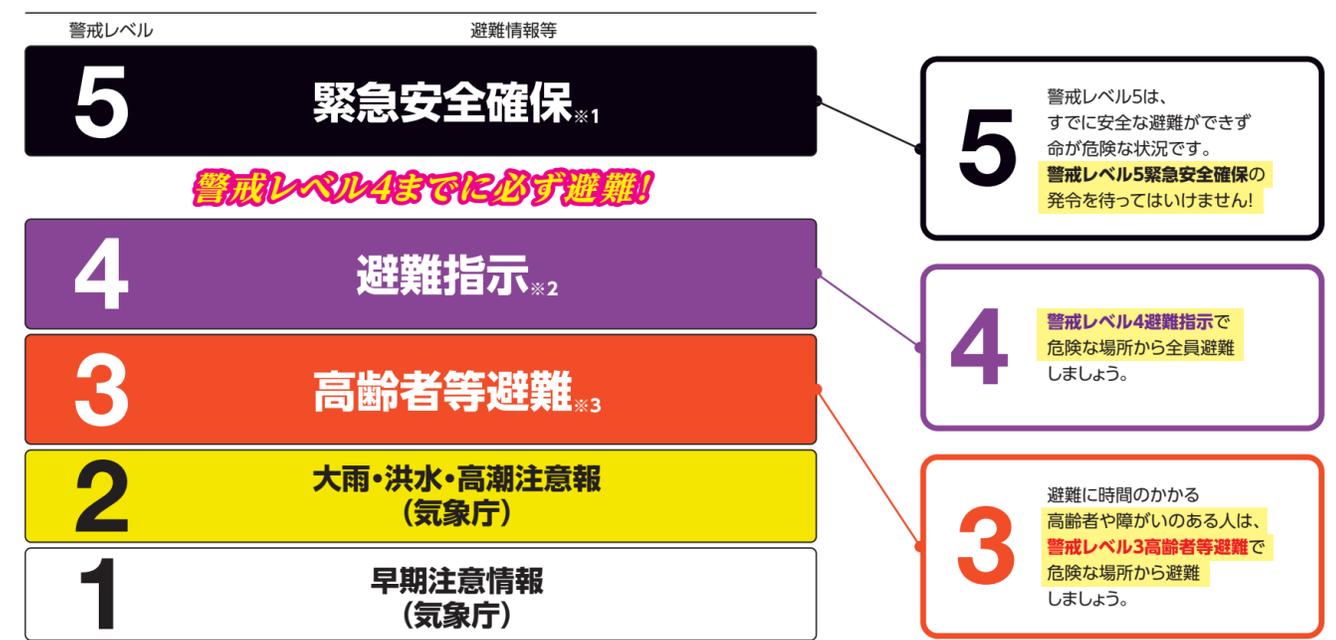
# 三浦市防災ハザードマップの使い方

# 避難に関する情報



## 市が出す避難情報と国や県が出す防災気象情報

洪水や土砂災害、河川の氾濫などの際に、5段階の「警戒レベル」を用いた避難指示などの避難情報を発信します。  
**警戒レベル5【緊急安全確保】**、**警戒レベル4【避難指示】**または**警戒レベル3【高齢者等避難】**が発令された場合は、避難行動をとりましょう。



※1 市町村が災害の状況を確実に把握できるものではない等の理由から、警戒レベル5は必ず発令される情報ではありません。  
 ※2 避難指示は、これまでの避難勧告のタイミングで発令されることとなります。  
 ※3 警戒レベル3は、高齢者等以外の人も必要に応じ普段の行動を見合わせ始めたり、避難の準備をしたり、危険を感じたら自主的に避難するタイミングです。

## 特別警報 (気象庁が公表)

- これまで経験したことのない大雨が予想されています。
- ただちに身を守るために最善を尽くしてください。
- 重大な災害が起こる可能性が非常に高まっています。
- 特別警報が出てからの避難では遅いです。

現象の種類	基準
大雨	台風や集中豪雨により数十年に一度の降雨量となる大雨が予想される場合
暴風	暴風が吹くと予想される場合
高潮	数十年に一度の強度の台風や同程度の温帯低気圧により 高潮になると予想される場合
波浪	高波になると予想される場合
暴風雪	数十年に一度の強度の台風と同程度の温帯低気圧により雪を伴う暴風が吹くと予想される場合
大雪	数十年に一度の降雪量となる大雪が予想される場合
津波	高い所で3メートルを超える津波が予想される場合 (大津波警報を特別警報に位置づける)
火山噴火	居住地域に重大な被害を及ぼす噴火が予想される場合 (噴火警報(居住地域)*を特別警報に位置づける)
地震(地震動)	震度6弱以上の大きさの地震動が予想される場合 (緊急地震速報(震度6弱以上)を特別警報に位置づける)

(\*)噴火警戒レベルを運用している火山では「噴火警報(居住地域)」「噴火警戒レベル4または5」を、噴火警戒レベルを運用していない火山では「噴火警報(居住地域)」(キーワード:居住地域厳重警戒)を特別警報に位置づけています。

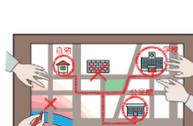
特別警報の発表基準

「三浦市防災ハザードマップ」には、土砂災害ハザードマップのほか、災害の種類や災害時の注意点など減災に役立つ情報を掲載しています。「危険箇所」、「避難する場所」、「避難経路」など必要な情報を書き込み、「自分だけのハザードマップ」を作成しましょう。

- 

**1 自宅の位置を確認する**  
まず、自宅の位置に印をつけましょう。
- 

**2 洪水浸水や土砂災害などの危険を確認する**  
ハザードマップを見て、自宅周辺が災害の危険区域になっていないか確認してください。
- 

**3 安全な避難経路を考える**  
避難所・避難場所までの経路を考えましょう。早めに避難するのが一番ですが、すでに荒天となってしまった場合は「浸水の危険のある場所」を避ける、地震による避難の場合は「ブロック塀等の危険な場所を避ける」など、安全な経路を見つけておきましょう。
- 

**4 避難について家族や近所の人と話し合う**  
「周辺の危険箇所」「避難する場所」「避難経路」などについて、家族や近所の人と話し合っておきましょう。いざというときには、慌てず、声を掛け合って、最善の避難行動がとれるように心構えしておきましょう。
- 

**5 自分たちの目で避難経路を確認する**  
避難所・避難場所までの経路を、実際に家族や近所の人たちと歩いてみましょう。マップ上では気が付かなかった危険箇所や注意点など記録しておきましょう。
- 

**6 避難時の持ち出し品などを準備しておく**  
35ページの「備蓄品および非常時持ち出し品」を参考に、避難するときの持ち出し品など、必要なものを準備しておきましょう。

## 目次

■ ハザードマップの使い方 上記	■ 三浦市マップ全体図 P13
■ 避難に関する情報 P1	■ マップ詳細図①～⑨・拡大図 P14～31
■ 地域の防災対策 P2	■ 災害時のゴミの出し方 P32
■ わが家の防災対策 P3	■ 避難措置 P33
■ 津波対策 P4・5	■ 災害時のペット対策 P34
■ 地震に備えて P6・7	■ 応急手当 P35
■ 風水害に備えて P8～10	■ 備蓄品および非常時持ち出し品 P35
■ 避難行動判定フロー P11	■ 避難場所・避難所一覧 P36
■ 防災情報の伝達経路 P12	■ インターネットを利用した防災情報 裏表紙
	■ 消防団員募集 裏表紙

# 地域の防災対策

## 自助・共助・公助の連携(相互協力)

### 自助 自分や家族

自らの身は自ら守ることで、主に事前の防災対策から、他人に頼れない発災時に、災害での命を左右するのは、自助努力にかかっています。

- 家具の固定、住まいの耐震化
- 飲料水、食料品の備蓄 など

### 共助 隣近所、自主防災組織、災害ボランティアなど

個人や一家庭の力だけではどうにもならない状況において隣近所同士で助けあうことです。特に、発災直後から避難や後片付けの段階では、必要となります。

- 防災訓練の実施
- 地域に住む要配慮者に対する支援 など

### 公助 市区町村、都道府県、国、消防、警察、自衛隊など

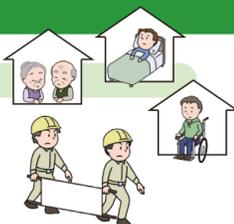
- 防災対策の推進
- 自助、共助に対する支援 など

市民の力では、どうにもならない状況での最後の受け皿といえるでしょう。避難所運営をはじめ被災生活から、仮設住宅や給付金など、生活再建段階で力となります。

## 要配慮者のために

### ◎ 災害のとき配慮が必要な人に優しく接しよう

突然起きる災害のときに、大きな被害を受けやすいのは要配慮者と呼ばれる人たちです。要配慮者とは、高齢者や子ども、障がいのある人、外国人など配慮が必要な人たちのことです。いざというときは地域のみんなで協力して要配慮者を支援しましょう。



### ◎ 高齢者・病人

あらかじめ支援者を決め、複数人で対応し、車いすや担架を使うほか緊急時はおぶって避難します。



### ◎ 要配慮者になったつもりで防災環境の点検を

目や耳の不自由な人や外国人に向けた警報・避難方法が正しく伝えられるのか、放置自転車などの障害物は無いかなど、日ごころからの点検が大切です。



### ◎ 目の不自由な人

まずは声をかけ、誘導するときは腕を貸してゆっくりと歩きます。できるだけ状況を言葉にして伝えましょう。



### ◎ 避難するときにはしっかり誘導する

一人の避難行動要支援者\*に複数の住民が支援していくなど、具体的な配慮体制を決めておきましょう。隣近所での助け合いがとても大切です。  
\*要配慮者のうち、避難する際に特に支援が必要な方を避難行動要支援者といいます。



### ◎ 耳の不自由な人

お互いに顔が向き合う形で、大きく口を動かし話しかけます。伝わりにくい場合は、身ぶり・筆談で伝えます。



### ◎ 困ったときこそ温かい気持ちで

非常時こそ、不安な状況に置かれている人に優しく接することが必要です。困っている人や要配慮者には思いやりの心を持って支援しましょう。



### ◎ 日ごろから積極的なコミュニケーションをとりましょう

災害のときに円滑な支援活動をするために、日ごろからコミュニケーションをとっていることがとても大切です。



### ◎ 車いす利用者

階段では2人以上で援助し、昇りは前向き、降り時は後ろ向きに移動します。1人の時はおぶって避難します。



### ◎ 旅行者・外国人

孤立させないように話しかけます。通じない場合は、身ぶり手ぶりで伝え、道順などは手で方向を示します。



# わが家の防災対策



## 家の中の安全対策

### ◎ 家の中に逃げ場としての安全な空間をつくる

部屋がいくつもある場合は、人の出入りが少ない部屋に家具をまとめておく。無理な場合は、少しでも安全なスペースができるよう配置換える。



### ◎ 寝室、子供やお年寄りのいる部屋には家具を置かない

就寝中に地震に襲われると危険。子どもやお年寄り、病人などは逃げ遅れる可能性があります。



### ◎ 安全に避難するため、出入口や通路にものを置かない

玄関などの出入口までの通路に、家具など倒れやすいものを置かない。また、玄関にいろいろなものを置くと、いざというときに、出入口をふさいでしまうことも。



### ◎ 家具の転倒を防ぐ

家具と壁や柱の間に遊びがあると倒れやすい。家具の下に小さな板などを差し込んで、壁や柱によりかかるように固定する。また、金具や固定器具を使って転倒防止策を万全に。



### ◎ 電気火災発生の防止

大地震が発生した際には、多数の火災が発生し、多くの人が命や財産を失っています。地震火災の原因の多くは電気が関連しており、電気機器等(電気ストーブ、電気コンロ等)の転倒による出火や、電気復旧時における通電火災(破損した電気コードのショートによる出火等)があります。このような電気火災を防ぐため、感震ブレーカー※等を設置しましょう。



### 感震ブレーカー

あらかじめ設定した震度以上の地震が発生した場合に、自動的に電気の供給を遮断しますので、電気による出火防止に効果的です。

## 家具の転倒、落下を防ぐポイント

### タンス・本棚

L字金具や支え棒などで固定する。二段重ねの場合はつなぎ目を金具でしっかり連結しておく。



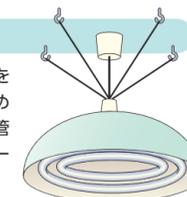
### 食器棚

L字金具などで固定し、棚板には滑りにくい材質のシートやふきんなどを敷く。重い食器は下に、軽い食器は上の方に置く。扉が開かないように止め金具をつける。



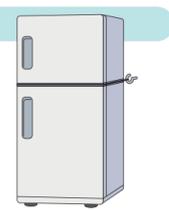
### 照明

チェーンと金具を使って数箇所止める。蛍光灯は蛍光管の両端を耐熱テープで止めておく。



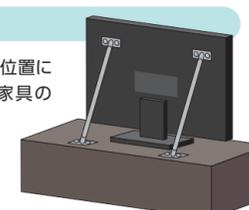
### 冷蔵庫

2ドアの場合は、扉と扉の間に針金を巻いて、金具で壁に固定する。



### テレビ

できるだけ低い位置に固定して置く(家具の上はさける)。



### ピアノ

本体にナイロンテープなどを巻きつけ、取りつけた金具などで固定する。脚には、すべり止めをつける。



## 家の中の安全対策

### 屋根

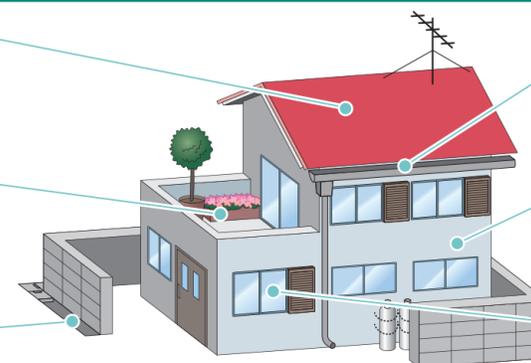
不安定な屋根のアンテナの補強。瓦のひび、割れ、ずれ、はがれはないか。トタンのめくれ、はがれはないか。

### ベランダ

鉢植えや物干し竿など飛散の可能性が高いものは室内へ。

### 側溝

側溝が詰まると、道路冠水や浸水の原因になります。日頃からの清掃にご協力をお願いします。



### 雨どい・雨戸

雨どいに落ち葉や砂が詰まっていないか。継ぎ目の外れや塗装のはがれ、腐りはないか。雨戸にガタツキやゆるみはないか。

### 外壁

モルタルの壁に亀裂はないか。板壁に腐りや浮きはないか。プロパンガスのボンベは固定されているか。

### 窓ガラス

ひび割れ、窓枠のガタツキはないか。強風による飛来物などに備え、飛散防止フィルムを貼る、外側から板でふさぐなどの処置を。

# 津波対策

津波から命を守るためには、  
「強い揺れ、弱くてもゆっくりとした長い揺れを感じたら」…すぐに避難!!  
「揺れが無くても津波警報を見聞きしたら」…すぐに避難!!



## 津波警報・注意報

○ 津波による災害の発生が予想される場合には…

### 地震発生

#### 発生後約3分で

- 大津波警報
- 津波警報
- 津波注意報 を発表します。

#### その後

- 予想される津波の高さ
- 津波の到達予想時刻 等の情報を発表します。

## 津波に関する情報

○ 津波警報の発表後

沖合や沿岸の観測点で観測した津波の高さや到達時刻を発表します。

- 高い津波が来る前は、津波の高さを「観測中」として発表します。
- 沖合で観測された津波の情報をいち早く伝えます。



「津波の高さ」は津波がない場合の海面からの高さです。津波が陸上で崖などを駆け上った高さは、海上の津波の高さの何倍にも達することがあります。

## 津波警報・注意報の分類と、とるべき行動

(※気象庁ホームページを参照)

	発表される津波の高さ		とるべき行動	想定される被害
	数値での発表 (津波の高さの予想区分)	巨大地震の場合の表現		
大津波警報	10m超 (10m<予想高さ)	巨大	ハザードマップの津波浸水想定区域内の住民や沿岸部や川沿いにいる人は、ただちに高台や避難ビルなど安全な場所へ避難してください。津波は繰り返し襲ってくるので、津波警報が解除されるまで安全な場所から離れないでください。	木造家屋が全壊・流失し、人は津波による流れに巻き込まれる。
	10m (5m<予想高さ≤10m)			
	5m (3m<予想高さ≤5m)			
津波警報	3m (1m<予想高さ≤3m)	高い	ここなら安心と思わず、より高い場所を目指して避難して下さい!	標高の低いところでは津波が襲い、浸水被害が発生する。人は津波による流れに巻き込まれる。
津波注意報	1m (20cm≤予想高さ≤1m)	(表記しない)	海の中にいる人は、ただちに海から上がって、海岸から離れてください。津波注意報が解除されるまで海に入ったり海岸に近付いたりしないでください。	海の中では人は速い流れに巻き込まれる。養殖いかだが流失し小型船舶が転覆する。

※津波警報等の発表時には、各区分の高い方の値を、予想される津波の高さとして発表します。



「巨大」という言葉を見たり聞いたりしたら、東日本大震災クラスの津波が来ると思って、ただちにより高い場所に避難しましょう!

## 津波からの避難

ハザードマップの津波浸水想定区域内にいる人は危険を感じたら、市からの避難情報を待たずに避難してください!



### 地震の揺れを感じたら!

- 強い地震のとき
- 弱くても長時間の地震のとき

### 海岸付近にいた場合 すぐに海岸から離れて!

- 堤防より内陸側へ  
ただちに移動

### 正しい情報の入手

- 「津波の心配なし」が  
確認できない限り避難!

### 安全な場所へ

- 津波到達まで時間がある場合は、浸水想定区域外の避難所などへ。
- 時間がない場合は、津波避難ビルや近くの高いところへ。

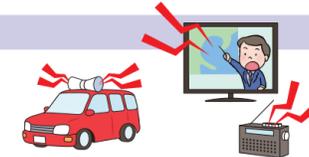
### 津波注意報・津波警報が でたら!

### ただちに避難!

## 避難時の注意事項

海底で地震が起きると、海底の地形が急に変わり、海水が大きく押し上げられたり沈み込んだりするため、津波が起きることがあります。この波の高さは水深が浅くなるにつれて増し、湾内に入るとさらに高くなります。ときには数十mにもなり、大きな被害をもたらすこともありますので早めの避難が不可欠です。なお、津波は日本近海の地震のみでなく、遠方の国で発生した地震や火山島の噴火によっても引き起こされます。

ラジオ、テレビ、防災行政無線などから新しい情報を!



津波注意報でも、海水浴や磯釣りには危険! ただちに避難



津波はくりかえしやってくる。警報、注意報が解除されるまで気をゆるめない!



地震を感じなくても、津波注意報・警報が出されたらただちに高台に避難! 船は湾外へ退避!

強い地震、また弱い地震でも長い時間ゆっくりとした揺れの場合は、ただちに安全な場所へ避難! 船は湾外へ退避!



湾外退避できない小型船は高いところに引き上げて固縛を! ただし時間に余裕があるときに!



## 周囲の状況に応じてあわてずに身の安全を確保し、避難行動をとりましょう。

すみやかに高台に避難し、津波情報をよく確認しましょう。



近くに高台がないときは堅牢な高い建物に避難しましょう。



※津波は2度、3度とやってきます。また、1度目より大きな津波が来ることもありますので波が引いたからといって海岸付近に戻ってはいけません。



自動車の利用はやめて徒歩や自転車などで移動しましょう。

## 用語の説明

### 緊急避難場所

津波、洪水等、災害による危険が切迫した状況において、住民等の生命の安全の確保を目的として住民等が緊急に避難する際の避難先として位置付けるものです。

### 指定避難所

災害の危険性があり避難した住民等を災害の危険性がなくなるまで必要な期間滞在させ、または災害により家に戻れなくなった住民等を一時的に滞在させることを目的とした施設になります。

### 福祉避難所

一般の避難所では生活に支障をきたす方に対してケアが行われるほか、ポータブルトイレや手すり、スロープなどのバリアフリー化が図られた施設になります。

# 地震に備えて



## 想定される地震

三浦市では、神奈川県地震被害想定調査報告書(平成27年3月)に基づき、都心南部の直下を震源とする「都市南部直下型地震」、三浦半島断層帯を震源域とする「三浦半島断層群の地震」、南海トラフを震源域とする「南海トラフ地震」などを想定しています。

三浦市でこのような地震が発生した場合、最大で震度6の揺れが発生します。特に、「南海トラフ地震」では、津波により大きな人的・物的被害が発生することが予想されています。

津波による浸水や土砂崩れなどにより道路が通行不能となり、孤立する地域が発生する可能性もありますので、市民の皆様には、「自らの身は、自ら守る(自助)」の心構えを念頭に、「皆のまちは、皆で守る(共助)」ことに努めて頂き、被害を最小限に抑えていくことが大切です。

## マグニチュードと震度

### ◎ マグニチュード

マグニチュードとは、地震そのものの大きさ(規模)を表します。一般にマグニチュードにより、次のように表現しています。

マグニチュードM8程度以上	→	巨大地震
マグニチュードM7以上	→	大地震
マグニチュードM5以上M7未満	→	中地震
マグニチュードM3以上M5未満	→	小地震
マグニチュードM1以上M3未満	→	微小地震
マグニチュードM1未満	→	極微小地震

### ◎ 震度

震度とは、地震の際の各地点の揺れの強さを表します。一般的に、マグニチュードが大きくても震源が遠い場合や深い場合は、震度が小さく、マグニチュードが小さくても震源が近い場合や浅い場合は、震度が大きくなります。

## 震度の違いと被害想定

0		人は揺れを感じないが、地震計には記録される。
1		屋内で静かにしている人の中には、揺れをわずかに感じる人がある。
2		屋内で静かにしている人の大半が、揺れを感じる。眠っている人の中には、目を覚ます人もいる。
3		屋内にいる人のほとんどが、揺れを感じる。歩いている人の中には、揺れを感じる人もいる。眠っている人の大半が目覚ます。
4		ほとんどの人が驚く。歩いている人のほとんどが、揺れを感じる。眠っている人のほとんどが目覚ます。
5		大半の人が、恐怖を覚え、物につかまりたいと感じる。
6		大半の人が、物につかまらなると歩くことが難しいなど、行動に支障を感じる。
7		立っていることが困難になる。
8		立っていることができず、はわないと動くことができない。揺れにほんろうされ、動くこともできず、飛ばされることもある。

## 緊急地震速報

大きな地震が来る直前には、テレビ・ラジオ・スマートフォンなどで緊急地震速報が流れることがあります。躊躇せず、体を低くし、頭を守る姿勢を取って身構えてください。

## 地震発生時のタイムライン (自宅等にいた場合)

### 地震発生

### 1~2分

#### 最初の大きな揺れは約1分間

- まず、自分の身を守る。(机の下に隠れたり、手近な座布団などで頭を保護する。)



#### 揺れがおさまったら

- すばやく火の確認、ガスの元栓、ストーブ、コンセントを切る。(火が出たら、落ち着いて初期消火※初期消火の限界は炎が天井にとどく前まで。)
- 家族の安全を確認(倒れた家具の下敷きになっていないかを確認)
- ドアや窓を開けて逃げ道を確認
- 靴などをはく。(ガラスの破片の散乱から足を守るため、靴や厚手のスリッパをはく。)
- 室内に居ることが危ないと判断した場合、すばやく屋外の安全な場所に一時避難する。
- 避難するときは、屋根がわらの落下やブロック塀・自動販売機などの転倒に注意

### 3分

#### みんなの無事を確認 火災の発生を防ぐ

##### ◎ 隣近所で声をかけよう

- 隣近所で助け合う。(要配慮者の安全確保をする。)
- 行方不明者はいないか。
- ケガ人はいないか。



##### ◎ 出火防止・初期消火

- 消火器を使う。
- 座布団、毛布、大きめのタオルなどの活用
- 漏電・ガス漏れに注意(ガスの元栓・電気ブレーカーを切る。)
- 余震に注意
- 火災発生時の初期消火(バケツリレー)
- 風呂の水はため置きしておく(ただし、乳幼児のいる家庭では浴槽への転落防止のため工夫しましょう。)

### 5分

#### ラジオなどで正しい情報を

- 大声で知らせる。
- 救出・救護
- 防災機関、自主防災組織の情報を確認
- デマにまどわされないように。
- 避難時に車は原則として使用しない。
- 電話は緊急連絡を優先する。



### 10分

### 数時間

### 3日

#### 協力して消火活動、救出・救護活動を

- 水、食料は蓄えているものでまかなう。(最低でも3日間、できれば1週間分備蓄しておく)
- 災害情報・被害情報の収集
- 風呂水を貯めおきしておく。
- 避難所情報を確認する。
- 助け合いの心が大切
- こわれた家には入らない。
- 引き続き余震に注意
- 無理はしない。



## 屋内にいた場合

### 家の中

- 揺れを感じたら、身の安全を確保し、揺れがおさまってからすばやく屋外の安全な場所へ避難する。
- 火の確認は揺れがおさまってからすみやかにする。
- 乳幼児や病人、高齢者など要配慮者、避難行動要支援者の安全を確保する。
- 裸足で歩き回らない。



### デパート・スーパー

- カバンなどで頭を保護し、柱や壁ぎわに身を寄せる。
- 係員の指示を聞き、落ち着いた行動をとる。
- 商品の落下やショーケースの転倒、ガラスの破片に注意する。

### 劇場・ホール

- カバンなどで頭を保護し、座席の間に身を隠す。
- 係員の指示を聞き、落ち着いた行動をとる。



### 集合住宅

- ドアや窓を開けて避難口を確保する。
- 避難にエレベーターは絶対使わない。炎と煙に巻き込まれないように階段を使って避難する。

## 屋外にいた場合

### 路上

- その場に立ち止まらず、周りの危険物に注意し、窓ガラス、看板などの落下物から頭をカバンなどで保護して、空き地や公園などに避難する。
- 近くに空き地などが無いときは、周囲の状況を冷静に判断して、堅牢な建物など安全性の高い場所へ移動する。
- ブロック塀や自動販売機などには近づかない。
- 倒れそうな電柱や垂れ下がった電線に注意する。



### 車を運転中

- ハンドルをしっかり握り、徐々にスピードを落とし、緊急車両などの通行スペースを確保し、安全を確認して道路の左側に停車する。
- 揺れがおさまるまで冷静に周囲の状況を確認して、カーラジオで情報を収集する。
- 避難が必要なときは、キーはつけたまま、ドアロックもしないで、車検証などの貴重品を忘れずに持ち出し、徒歩で避難する。
- 車内に自分の連絡先を書いたメモを残す。
- 路上駐車避け、駐車場や広場に停める。

### 海岸付近

- 高台へ避難し津波情報をよく聞く。注意報・警報が解除されるまでは海岸に近づかない。

### 電車などの車内

- つり革や手すりに両手でしっかりつかまる。
- 途中で止まっても、非常コックを開けて勝手に車外へ出たり、窓から飛び降りたりしない。
- 乗務員の指示に従って落ち着いた行動をとる。



# 風水害に備えて



## 大雨情報をキャッチ! こんなときのわが家の安全対策

### 大雨注意報・警報・特別警報(浸水害・土砂災害)の発表基準

下記に併せて、洪水注意報・洪水警報が発表されます。

<b>大雨注意報</b>	大雨によって災害が起こるおそれがあると予想される場合
<b>大雨警報</b>	大雨によって重大な災害が起こるおそれがあると予想される場合
<b>大雨特別警報</b>	台風や集中豪雨により数十年に一度の降雨量となる大雨が予想され、若しくは数十年に一度の強度の台風や同程度の温帯低気圧により大雨になると予想される場合

### 雨の強さと降り方 (単位:mm/時)

10以上~20未満 「やや強い雨」 「ザーザーと降る」	20以上~30未満 「強い雨」 「どしゃ降り」	30以上~50未満 「激しい雨」	50以上~80未満 「非常に激しい雨」	80以上~ 「猛烈な雨」
雨の音で話し声がよく聞け取れない。	ワイパーを速くしても見づらい。側溝や小さな川があふれる。	バケツをひっくり返したような激しい雨。山崩れ、がけ崩れが起きやすくなり危険地帯では避難の準備が必要	滝のように降り、あたりが水しぶきで白くなる。マンホールから水が噴出する。がけ崩れが起こりやすい。多くの災害が発生する。	息苦しくなるような圧迫感があり、恐怖を感じる雨。雨による大規模な災害の発生する恐れが強く、厳重な警戒が必要

### 台風

日本には毎年多数の台風が接近あるいは上陸し、たびたび大きな被害をもたらします。台風の接近が予想される際は、台風情報に十分注意し、被害のないように備えることが必要です。

#### 台風の大きさと強さの目安

風速15m/秒以上の半径		最大風速 (m/秒)	
大きさ	大型(大きい)	500km以上~800km未満	強い 33m/秒以上~44m/秒未満
	超大型(非常に大きい)	800km以上~	非常に強い 44m/秒以上~54m/秒未満
			猛烈な 54m/秒以上

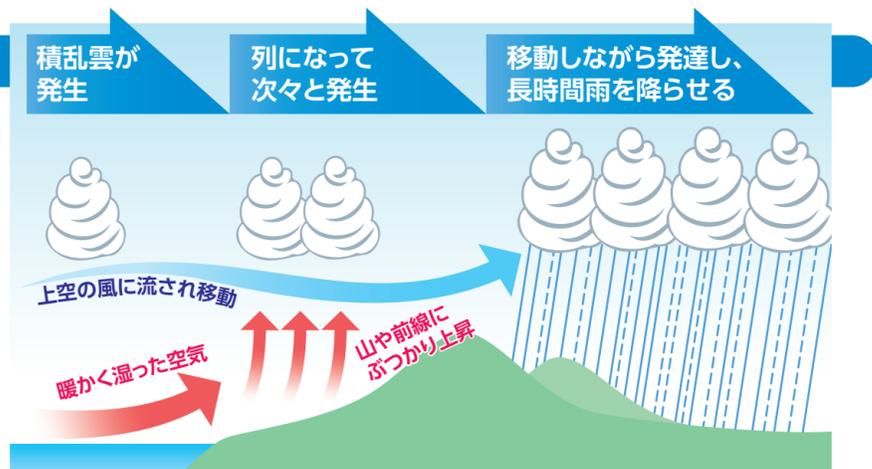
### 集中豪雨

集中豪雨は、前線や低気圧などの影響や雨を降らせやすい地形の効果によって、積乱雲が同じ場所で次々と発生・発達を繰り返すことにより発生します。激しい雨が数時間にわたって降り続き、河川の氾濫や土砂災害などによる大きな被害をもたらすことがありますので、気象情報に十分注意し、万全の対策をとることが必要です。

- ラジオやテレビなどの気象情報に注意をする。
- 市や防災関係機関の広報をよく聞いておく。
- 停電に備え懐中電灯や携帯ラジオを用意する。
- 非常時持ち出し品を準備しておく。
- 早く帰宅し、家族と連絡を取り、非常時に備える。
- 浸水に備えて家財道具は高い所へ移動する。
- 飲料水や食料を最低でも3日分、できれば1週間分確保しておく。
- 危険な地域では、いつでも避難できるよう準備をする。
- 屋上の物は片付けるか固定する。

### 線状降水帯とは

次々と発生する発達した雨雲(積乱雲)が列をなした、組織化した積乱雲群によって、数時間にわたってほぼ同じ場所を通過または停滞することで作り出される、線状に伸びる長さ50~300km程度、幅20~50km程度の強い降水をともなう雨域をいいます。線状降水帯の多くは暖候期に発生し、大きな災害の要因となる集中豪雨を引き起こすことがあります。



### 避難時の心得

#### ◎ 外水氾濫

扉の下の隙間から污水が入ってくるので、「土のう」や板などで前面を囲み、タオルで隙間をふさぎます。また、ポリタンクなど軽い物は事前に屋内に移しましょう。



#### ◎ 避難の呼びかけに注意を

危機が迫った時には、防災行政無線や広報車などから避難の呼びかけをすることがあります。呼びかけがあった場合には速やかに近所に声掛けしながら避難しましょう。



#### ◎ 避難の前に確認を

避難する時は、電気のブレーカーを落とし、ガスの元栓を閉め、床下の通気口などをふさぎ、戸締りを確認しましょう。



#### ◎ 避難所までの移動

車での避難は、歩行者・緊急車両の妨げになります。また、浸水すると動かなくなるので使わないようにしましょう。風雨が激しくなる前に車両または徒歩で避難しましょう。風雨が激しくなってきたときは浸水の恐れがあるので車両ではなく徒歩で避難しましょう。



#### ◎ 危険なところには近寄らない

切れた電線のそばなど、危険な場所に近寄らないようにしましょう。また、氾濫水には污水が混ざっているので、子供などがさわらないように気をつけましょう。



#### ◎ 動きやすい格好で

動きやすい服装で、軍手をはめ、ヘルメットがある場合はかぶり、はき物は水に浸かっても歩きやすいものを選びましょう。レインコートは上下が分かれているタイプで目立つ色のものがよいでしょう。



#### ◎ 水面下は危険です。2人以上で避難を

浸水した場所を歩く時は、長い棒を杖がわりにして、マンホールや側溝がないか水面下の安全を確認し、2人以上での行動を心がけましょう。



#### ◎ 歩ける深さ男性約70cm、女性約50cm

洪水の場合、歩ける深さは男性で約70cm、女性で約50cmまで。それ以上になったら高い場所で救助を待ちましょう。



### 竜巻による災害

竜巻は、台風・寒冷前線・低気圧などに伴って発生します。短時間で狭い範囲に集中して被害をもたらすことが特徴です。

#### もしも竜巻が間近に迫ってきたら

すぐに身を守るための行動をとってください。一番は頑丈な建物の中に避難することです。

#### ◎ 屋内にいる場合

●窓、雨戸、シャッターなどを閉め、窓から離れた場所へ移動する。

#### ◎ 屋外にいる場合

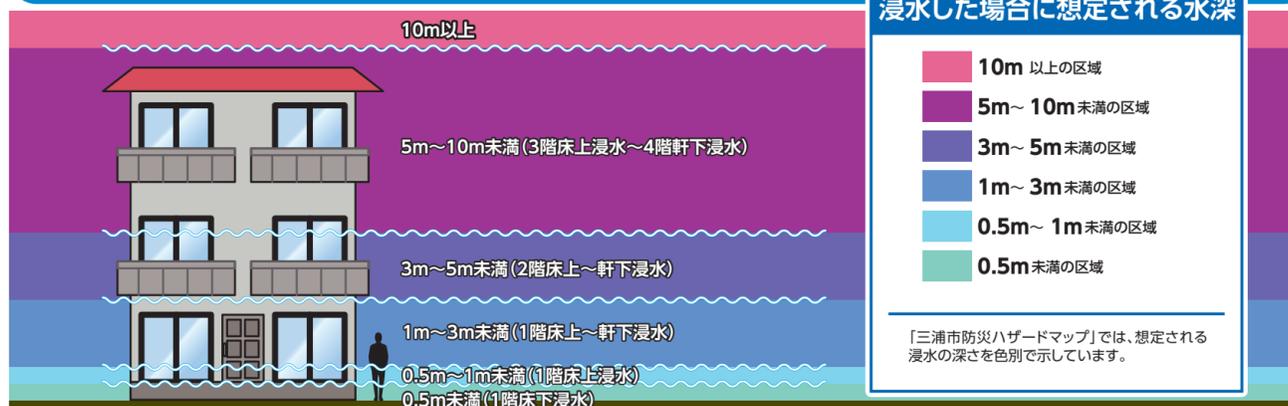
- 建物の中に避難する。ただし、物置、車庫、プレハブなどは避ける。
- 近くに建物がない時は、くぼみなど身を隠せる場所で頭と首を守る。
- 電柱や樹木は倒壊の危険があるため近づかない。



#### 竜巻注意情報・竜巻発生確度ナウキャスト

気象庁が発信している注意情報と気象情報です。気象庁HPの「気象情報ページ」で確認できます。

### 浸水の深さについて



## 土砂災害の種類

土砂災害は大きく分けてがけ崩れ・地すべり・土石流の3種類があります。

### がけ崩れ・山崩れ

地面にしみ込んだ水分が土の抵抗力を弱め、弱くなった斜面が突然崩れ落ちる。日本で最も多い土砂災害で、人家の近くでも発生するため、逃げ遅れて犠牲となる人も多い。

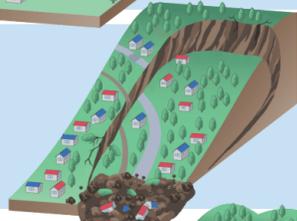


主な前兆

- がけからの水がにごる
- 地下水やわき水が止まる
- 斜面がひび割れ、変形がある
- 小石が落ちてくる
- がけから音がする
- 異様なにおいがする

### 地すべり

脆弱な地質の土地に豪雨が降り、ゆるくなった斜面の一部が地下水の影響と重力で下方へ移動する現象。一度に広範囲で発生するために、住宅や道路などに大きな被害をおよぼす。

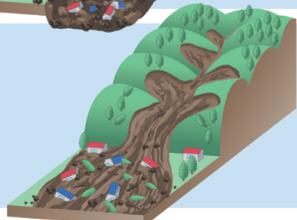


主な前兆

- 地面にひび割れができる
- 井戸や沢の水がにごる
- がけや斜面から水がふき出す
- 家やよう壁に亀裂が入る
- 家やよう壁、樹木、電柱が傾く

### 土石流

谷や斜面にたまった土や石、砂などが、大雨による水と一緒に一気に流れ出す。強大な威力と圧倒的なスピードで、進行方向にあるものを次々とのみ込み、壊滅させていく。



主な前兆

- 山鳴りがする
- 雨が降り続けているのに、川の水位が下がる
- 川の水がにごったり、流木が混ざったりする

## 危険箇所をチェックしよう

勾配が30度以上あるがけは、大雨により崩れる危険性が高い場所です。

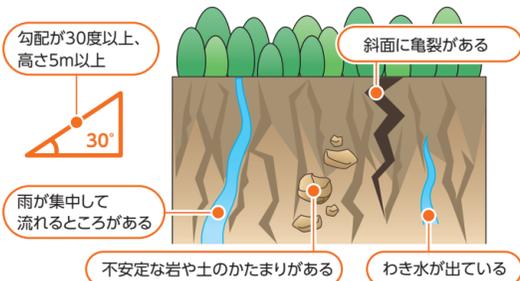
### ◎ こんな崖に注意!!

勾配が30度以上、高さ5m以上

雨が集中して流れるところがある

不安定な岩や土のかたまりがある

わき水が出ている



### ◎ こんなよう壁に注意!!

よう壁が変形している

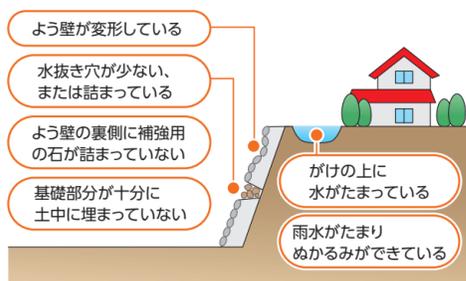
水抜き穴が少ない、または詰まっている

よう壁の裏側に補強用の石が詰まっていない

基礎部分が十分に土中に埋まっていない

がけの上に水がたまっている

雨水がたまりぬかるみができる



## 土砂災害警戒情報とは

大雨警報(土砂災害)が発表されている状況で、命に危険を及ぼす土砂災害がいつ発生してもおかしくない状況となったときに警戒を呼びかける情報で、神奈川県と気象庁が共同で発表しています。周囲の状況や雨の降り方にも注意し、土砂災害警戒情報等が発表されていなくても、危険を感じたら、躊躇することなく自主避難をしましょう。

### 土砂災害警戒区域 (イエローゾーン)

住民等の生命又は身体に**危害が生ずる**おそれがあると認められる土地の区域

### 土砂災害特別警戒区域 (レッドゾーン)

住民等の生命又は身体に**著しい危害が生ずる**おそれがあると認められる土地の区域

### ● 気象庁

<https://www.jma.go.jp/bosai/risk/>



### ● 神奈川県土砂災害情報ポータル

<https://dosyasaigai.pref.kanagawa.jp/website/kanagawa/gis/index.html>



### ◎ 避難行動のポイント

- 1 上記の土砂災害の事象に注意し、早めの避難をする。
- 2 がけ崩れや土石流の起こる方向に対して横方向に避難(水平避難)する。
- 3 夜中や大雨の中など外へ避難を行うのが危険と感じる時は、自宅2階以上の山の反対側の部屋など堅固な建物の上階へ避難(垂直避難)することも考慮する。
- 4 記録的短時間大雨情報が発表された場合は、早めに避難を行う。
- 5 土砂災害警戒情報が発表された場合は、すぐに避難を行う。



# 避難行動判定フロー



台風・豪雨時に備えてハザードマップと一緒に「避難行動判定フロー」を確認しましょう

「自らの命は自らが守る」意識を持ち、自宅の災害リスクととるべき行動を確認しましょう

## 避難行動判定フロー

ハザードマップ(本書)で自分の家がどこにあるか確認し、印をつけてみましょう。



あなたがとるべき避難行動は?必ず取り組みましょう

平時に確認

家がある場所に色が塗られていますか?

いいえ

色が塗られていなくても、周りと比べて低い土地や崖のそばなどにお住まいの方は、市からの避難情報を参考に必要に応じて避難してください。

災害の危険があるので、**原則として**、自宅の外に避難が必要です。

参照

- 土砂災害(特別)警戒区域
- その他の災害区域

に該当する世帯は

⇒8~10ページ「風水害に備えて」をご覧ください



ご自身または一緒に避難する方は避難に時間がかかりますか?

はい

いいえ

安全な場所に住んでいて身を寄せられる親戚や知人はいますか?



安全な場所に住んでいて身を寄せられる親戚や知人はいますか?または、自家用車で高台への避難は可能ですか?

はい

いいえ

はい

いいえ

警戒レベル3が出たら、**安全な親戚や知人宅に避難**しましょう(日頃から相談しておきましょう)

警戒レベル3が出たら、市が指定している**指定避難場所及び指定避難所**に避難しましょう

警戒レベル4が出たら、**安全な親戚や知人宅**、または、毛布等を準備のうえ**自家用車で高台**に避難しましょう

警戒レベル4が出たら、市が指定している**指定避難場所及び指定避難所**に避難しましょう

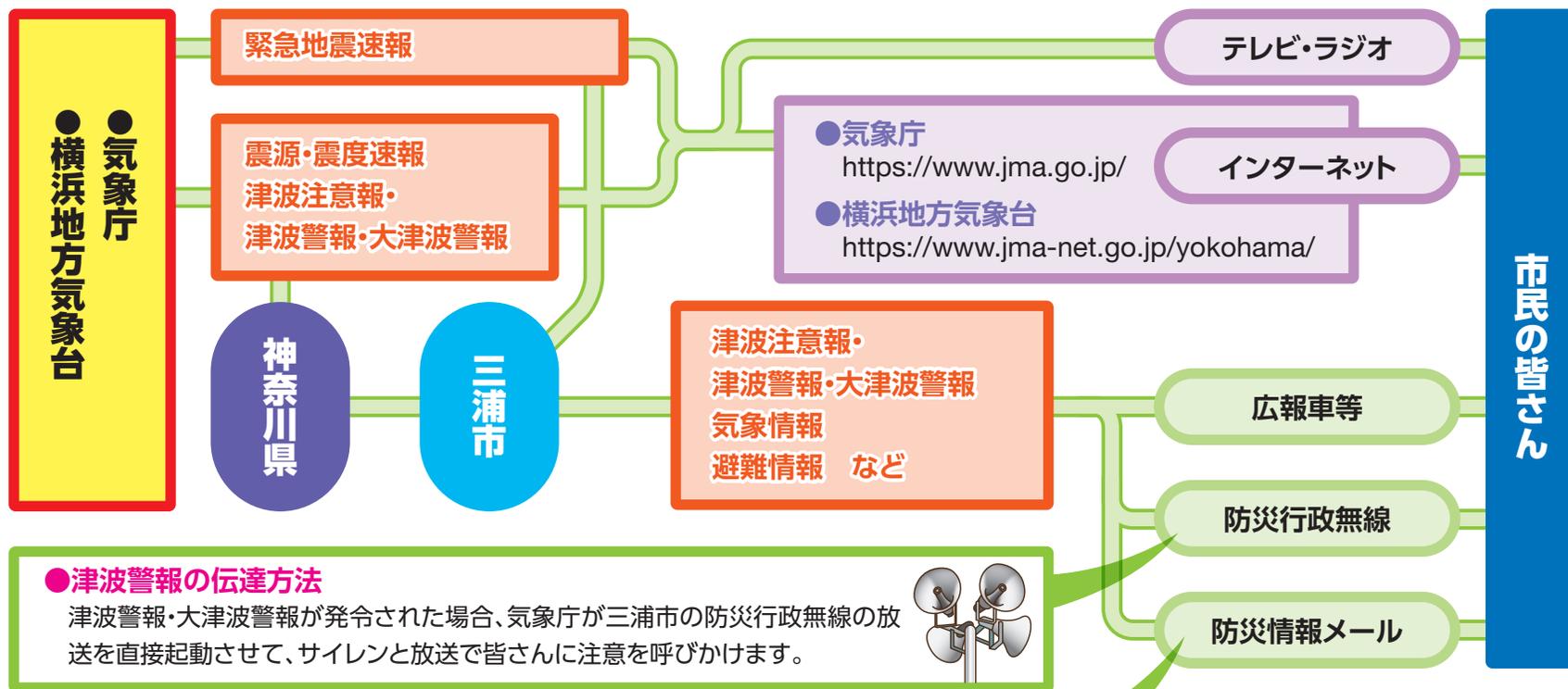
### ◎ 早めの避難に関して

災害時には早めの避難が大切です。自分や家族の身を守るために、避難情報等の発令、避難所の開設の有無に関わらず、危険だと判断した場合には、知人宅や周囲の高台など、ご自身が安全だと思う場所に早めに避難しましょう。

# 防災情報の伝達経路



防災情報は各機関から下のような経路で伝達されます。市民の皆さんは、防災行政無線・防災情報メール・テレビ・ラジオ・インターネットなどを利用して情報収集をしてください。また、避難先でもこれらの情報が受け取れるように備えましょう。



## ●津波警報の伝達方法

津波警報・大津波警報が発令された場合、気象庁が三浦市の防災行政無線の放送を直接起動させて、サイレンと放送で皆さんに注意を呼びかけます。



## ●防災情報メールサービス登録用アドレス

bousai.miura-city@raidan.ktaiwork.jp

※ドメイン指定の解除を行ってください。



※気象条件や地形的な問題等で防災行政無線放送が聞きづらい場合を補うサービスですので、是非ご登録を。

## 津波予報の種類

被災地域内やその他の地域の方々との「声の伝言板」です。

地震発生後に津波の発生が予想される場合、気象庁は津波注意報または津波警報、大津波警報を発表します。

避難区分	津波予報の種類	予想される津波の高さ	
		数値での発表(発表基準)	巨大地震の場合の表現
避難準備・高齢者等避難開始	津波注意報	1m	表記しない
避難勧告	津波警報	3m	高い
避難指示(緊急)	大津波警報	5m、10m、10m超	巨大

## 災害時の連絡方法

### ◎ [171]災害用伝言ダイヤル

- ※[171]をダイヤルし、利用ガイダンスにしたがって伝言の録音・再生を行ってください。
- ※録音された伝言は、被災地の方の電話番号を知っているすべての方が聞くことができます。
- ※提供開始や録音件数等、提供条件についてはNTTで決定し、テレビ・ラジオ等でお知らせします。

### 【災害用伝言ダイヤル「171」体験利用提供日】

- 毎月1日0:00～24:00
- 正月三が日(1月1日0:00～1月3日24:00)
- 防災週間(8月30日9:00～9月5日17:00)
- 防災とボランティア週間(1月15日9:00～1月21日17:00)

### 伝言の録音方法

**171** をダイヤル

↓ガイダンスが流れます

**録音の場合 1**

↓ガイダンスが流れます

(XXX)XXX-XXXX

### 伝言の再生方法

**171** をダイヤル

↓ガイダンスが流れます

**再生の場合 2**

↓ガイダンスが流れます

(XXX)XXX-XXXX

※被災地内の方も、被災地以外の方も被災地の方の電話番号を市外局番からダイヤルしてください。

NTT東日本 災害用伝言ダイヤル <https://www.ntt-east.co.jp/saigai/voice171/>

### ◎ 携帯電話 災害用伝言板サービス

- ※震度6弱以上の地震などの大きな災害が発生した時に、携帯電話・スマートフォンを利用して自身の安否情報を登録、家族や友人の安否情報を確認することができます。
- ※携帯電話・スマートフォンから「災害用伝言板」を選択してください。
- ※他社携帯電話・スマートフォンおよびパソコンなどからも、家族や友人の安否確認をご確認いただけます。



NTTドコモ

<http://dengon.docomo.ne.jp/top.cgi>



au by KDDI

<http://dengon.ezweb.ne.jp/>



ソフトバンク

<http://dengon.softbank.ne.jp/>